

〔駐村研究員だより〕

貧乏酪農最前線

なか がわ けん さく
中 川 健 作

春先、農協から“畜産環境保全施設整備事業にともなう特別緊急対策”への参加者の募集があった。この緊急対策とは、家畜糞尿に起因する環境汚染を未然に防ぐために、機械施設をリースする費用の1/2を助成するというものであった。かねてから、僕の牧場ではマニユアスプレッダーを必要としていたが、資金的な折り合いがつかず、昨年は堆肥を手（ホーク）で撒いた（超重労働＝機械の30倍以上）。

僕はウッキヤーと喜んで、その事業に飛び付こうと大急ぎで書類を整えた。堆肥舎をビニールハウスで考え、工務店に見積もりを立ててもらって、マニユアスプレッダーの見積書とセットで提出した（約300万円＝自己負担150万円）。

提出すると農協から「ビニールハウスはだめだ」と言われた。僕はそれ以上投資は無理と考えていたので堆肥舎はあきらめ、マニユアスプレッダー一本でいくことにした。その後締切の前日の夜になって、なぜか某トラクター販売会社のおやじから「この対策は機械と堆肥舎セットの人が優先だからうちを利用してくれ」という電話があった。すぐに農協に問い合わせたが、そんな条件はないと言う。だが締切も過ぎ、かなりたって「機械と堆肥舎セットになったから」と農協が募集し直した。僕はかなりがっかりしたが（ビニールハウスの件＋セットの件）、その事業にのることをあきらめた。

それから、僕はマニユアスプレッダーを中古で見つけた。28万円だった。この金額は当初のリースでの計画のちょうど2年分に

あたる。たった28万円。結局、僕は大金を払わずにすんだのである。うちの糞尿問題を完全に解決しようとするれば、パドックの牛の通路に屋根をかける必要があるが、この投資は先延ばしすることにした。この屋根＝堆肥舎も、自分たちで組み立てれば10万5000円で出来るめどがついた（ビニールハウス＋ただのドラム缶）。結局、261万5000円（300万円－38万5000円）節約できた。というより、本来乳価対策や酪農政策で各農家が恩恵をこうむるはずの金が、ほとんど建築屋や機械屋にとられて消えてしまうのである。

そもそもこの牧場では、ほぼ1年中（春先の雪解けと初冬の凍るまでのぬかるむ時期以外）放牧地で過ごすため、堆肥はほとんどたまらない。強いていえば、そのぬかるむ時期の糞尿と放牧地に行く途中で通るパドックの糞尿が問題となるが、他の農家からすればほんのわずかなものである。その問題となる堆肥も、うちでは天気の良い日にできるだけ広げて水分を飛ばし、雨の直前に集めて山にしてビニールシートをかけている。水分を下げ山にした堆肥は高熱で発酵し、数回繰り返すことによって短い時間で完熟堆肥となる。堆肥を雨ざらしにしないので環境汚染をほとんど起こさない。

今年は春も早かったし、7月前半までは天候が良かったが、それ以降日が照らず草も足りなくなってきてしまった。そこで、この念願のマニユアスプレッダーで8月中に完熟堆肥をまいた。残ったのは昨冬の堆肥で、次の冬がくる前に完熟させて草地に還元させてやるつもりである。うちには堆肥を遊ばせておく土地もないし、早く戦力になってもらわなければいけない。

僕は、6年ほど前から新規入植者として酪農をやっている。無リース・親の貯金担保で資金を調達している。今年の12月に土地を購入するが、その時点での借金総額は2500万円程度（公社営リース利用者はほとんど

5000 万円以上)となる。借金の額だけみると少なくても良いように見えるが、その代償として様々なトラブルや苦労を抱えた。しかし、ゆっくりであるが時間とともに解決に向かっている。

そのひとつの例として餌があげられる。初めは土地もなくすべて購入飼料であったが、そのうち土地を借りそして購入することが出来た。でも土地の購入はかなりの投資なので、まだまだすべて粗飼料を自給するまでの十分な広さに至っていない。初めて土地を借りたときは収穫機もないので放牧をした。土地も広がってくると、春先にどうしても草が余るので、ただでもらった収穫機でスタックサイレージを作った。

現在の僕たちのやり方は、季節繁殖で春先の牧草の成長のピークと牛の採食のピークを合わせ、牧区を細かく区切り栄養価の高い青草を食わせている。そして道路の脇の草を市の草刈車が刈ったときに、天気を見て乾草にし小屋に詰めて子牛の餌にしたり、秋の放牧草の力が無くなってきたときの親牛の餌にしたりしている。また9月からは澱粉粕が格安で手に入るのを助かる。これはエネルギーのバランスが高く、タンパクの高い牧草の特徴とマッチする。冬は牧草が足りないの、近所の農家からロールパックサイレージを購入している。来年は草地を広げられるので、ゆとりある放牧をし採草面積も増え飼料の自給率もアップ出来る。いつかは食品工場の粕類なども使えたらなあと思っている。

さて僕は昨年11月出会って6カ月というスピード結婚をした。「よく嫁さんがきたもんだ」とか「さすが健作」などと、僕の経営を見ながらみんないろいろなことをいっていたが、当の美紀ちゃん本人はかなり苦労している。まず体力仕事がほとんどで(ミルカーはバケットミルカーでかなり体力が必要だし)、能率も悪いし、住宅は台所・便所はぼろで部屋も吹き抜けで、客が来ても落ち着い

て泊めることができない(自分が寝不足になってしまう)。嫁さんが苦労しているのを見ると、これで良かったのかなと思う。自分一人の価値観や僕のペースの体力仕事ではうまくいかなかったのだ。

でも今更リースにのるわけにもいかないし、この貧乏酪農を貫いていくしかない。2人になってから1年が過ぎようとし、これからの我々の課題もはっきりしてきた。

- ①搾乳施設など、労働条件の改善
- ②水道の凍結防止
- ③住宅など生活条件の改善
- ④今後の経営形態の選択

以上が僕の現在の貧乏酪農経営戦略である。現在の苦労もきっと力になる時が来ることを信じている。

お役人さん達、どうか僕らがほんとうに必要なとしていることに補助してください。でもほとんど当てにしていません。

(北海道帯広市・酪農業)